

投資事業評価調書（継続：再評価）

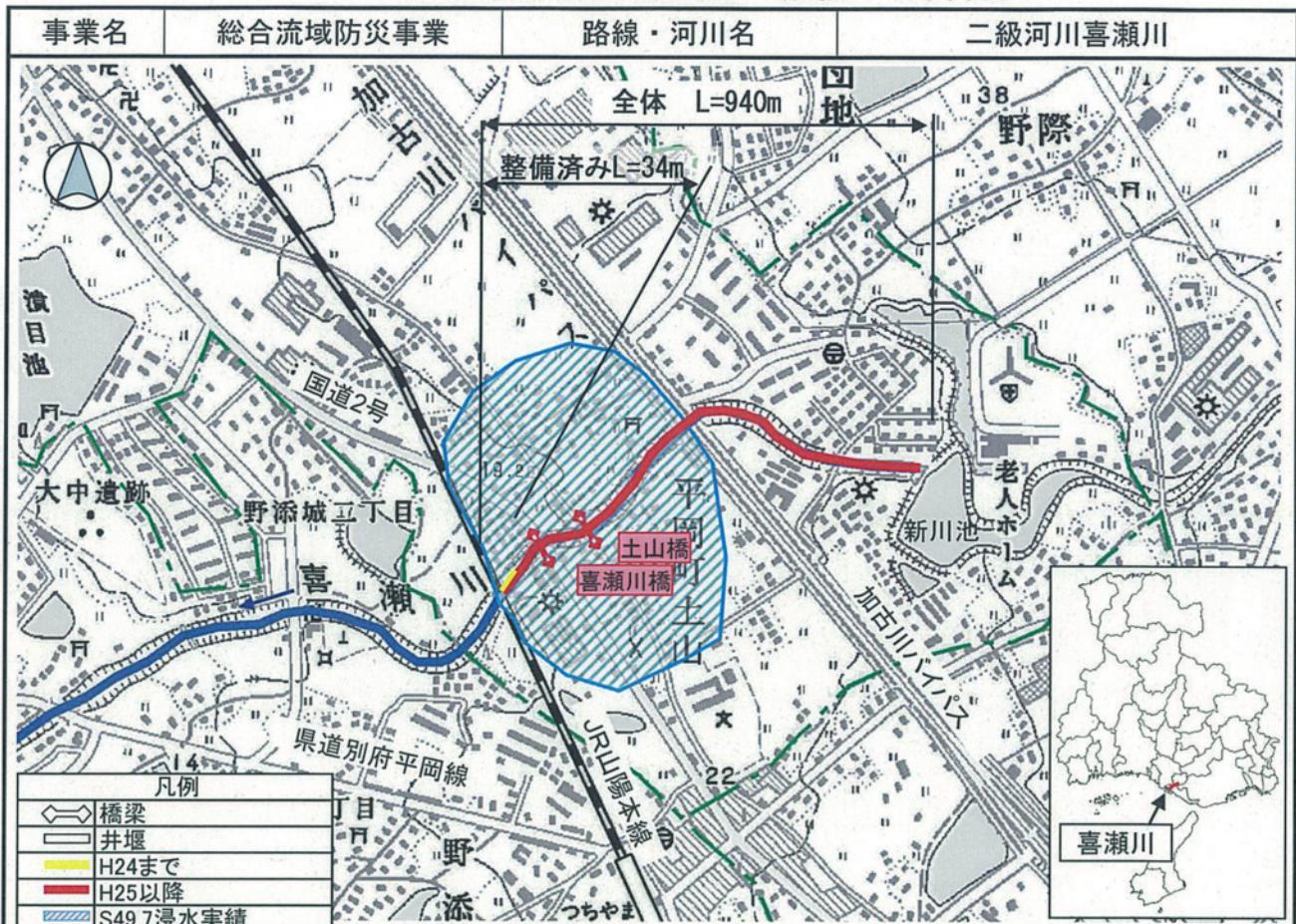
部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 (都市河川係長	松本 正利 山本良太郎)	内線	4408 (4417)
------	-------------------	-----------------------	-------------------	-----------------	----	------------------

事業種目	河川事業	新規評価年度	-		現計画	前回評価時点					
事業名	二級河川喜瀬川 総合流域防災事業	河川整備計画策定年度 〔事業採択年度〕 着工年度	H19	事業費	14 億円	14 億円					
				内用地補償費	4 億円	4 億円					
事業区間	加古川市平岡町土山	再評価年度	-	完成予定年度	H36	H39					
				進捗率 (内用補進捗率)	20% (47%)	0% (0%)					
所在地	加古川市平岡町土山			残事業費	11 億円	14 億円					
事業の目的				事業内容()前回評価時点							
当該河川では、昭和 20 年阿久根台風、47 年 7 月豪雨、49 年 7 月豪雨などにより浸水被害が発生しており、特に昭和 49 年 7 月豪雨では、浸水面積 54ha、浸水家屋 178 戸の甚大な被害に見舞われている。 そのため、河道拡幅等の改修を実施し、概ね 30 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水に対して浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。				計画流量	180m ³ /s(180m ³ /s) 〔基準点：住吉橋〕						
				整備延長	940m(940m)						
				道路橋	2 橋(2 橋)						
				〔負担割合 国:1/2, 県:1/2〕							

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</p> <p>河川整備計画にあわせ、事業区間等を見直した。</p> <p>平成 23 年台風 12 号と 15 号の異常出水により河床が洗掘され、今後の出水により護岸が被災する恐れがある。このため工事期間を 3 年短縮し、完了を平成 36 年度とすることにより、早期安全確保を図る。</p>
進捗状況	工事に先立ち J R 山陽本線橋梁から国道 2 号の用地買収と物件補償を実施した。また、護岸 34m を整備した。

評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (参考H15年度再評価)	<p>【審査会意見】 県民の環境に対する意識は高まっており、単に浸水被害を防止するための河川改修だけでなく、魚道の設置等生物の生活空間、人々に安らぎを与える親水空間としても十分配慮されたい。</p>	<p>【対応方針】 河床に渦筋を整備することにより、変化のある流れを確保し、多様な生物の生活空間に配慮するとともに、緩傾斜護岸の区間を設けることにより親水性の確保を図る。</p>
(1)必要性	JR山陽本線から加古川バイパス下流の区間は、計画流量180m ³ /sに対し、現況が約半分の概ね90m ³ /sしかなく、昭和49年7月豪雨など浸水被害が発生しており、浸水被害防止に向け、治水安全度の向上が必要である。	
(2)有効性 ・効率性	<p>費用便益比B/C = 6.2</p> <p>既存の護岸が利用可能な区間においては、嵩上げ等で対応し、効率的に改修を進める。</p>	
(3)環境適合性	<p>河床に渦筋を整備することにより、平常時においても変化のある流れを確保し、多様な生物の生活環境に配慮する。</p> <p>JR山陽本線から国道2号までの区間においては、緩傾斜の自然石護岸を整備することにより、親水性の確保を図る。</p>	
(4)優先性	国道2号橋梁や人家連坦区間の改修が残っており、本事業の優先性は高い。	
結果評価の 左の理由	継続	事業の必要性は、河川整備計画策定時と変わっておらず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

事業進捗状況概要図（継続：再評価）

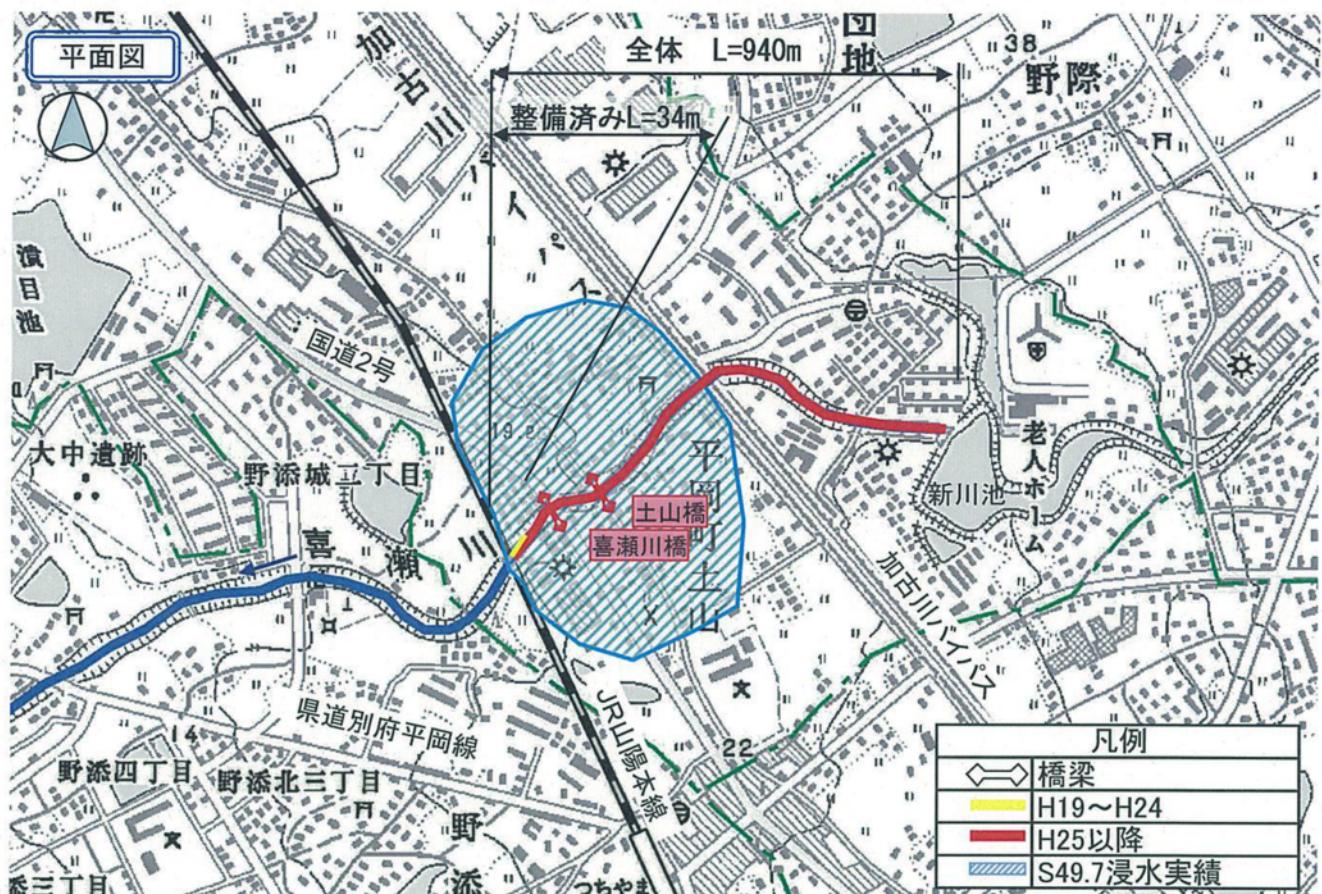


	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	<p>H19～H36 年度 【事業費=14 億円】</p> <p>整備延長 L=940m</p> <p>整備概要 河道拡幅</p> <p>道路橋 2 橋</p>	
H24まで	<p>H19～24 年度 【事業費=3 億円】</p> <p>整備延長 右岸 L=34m</p> <p>事業概要 護岸工</p>	<p>護岸(右岸)を 34m 整備した。</p> <p>また、今後の工事区間の物件補償を実施するとともに、用地 1,300 m²を確保した。</p>
今後 12 年間 (予定)	<p>H25～36 年度 【事業費=11 億円】</p> <p>整備延長 左岸 L=940m、右岸 L=906m</p> <p>事業概要 河道拡幅</p> <p>道路橋 2 橋 (喜瀬川橋、土山橋)</p>	<p>事業区間全体で、概ね 30 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水流量*が安全に流下可能。</p> <p>昭和 49 年 7 月洪水と同規模の洪水による浸水被害が解消。</p>

今後 10 年間 (予定)	<p>H25～34 年度 【事業費=8 億円】</p> <p>整備延長 L=520m (左岸 520m、右岸 486m)</p> <p>事業概要 河道拡幅</p> <p>道路橋 2 橋 (喜瀬川橋、土山橋)</p>	<p>道路橋 2 橋の改築と河道拡幅により、加古川バイパスから下流において概ね 30 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水流量*が安全に流下可能。</p> <p>(国道 2 号等の浸水が解消)</p>
---------------------	---	--

*喜瀬川水系河川整備計画の目標流量

出水状況(S49.7)



昭和49年7月豪雨浸水実績

床上浸水	2戸
床下浸水	176戸
浸水面積	54ha